

地元の技で獅子頭新調

伝統工芸職人の手で仕上げられ、祭り本番を待つ獅子頭＝白山市美川北町の北島仏壇店工房で

美川「おかえり祭り」厄払い



十六、十七日に白山市美川地域で開かれる「おかえり祭り」で活躍する「美川おかえり獅子」の獅子頭が今年、市内の伝統工芸職人の技で新調された。舞い手の若衆グループ「美川おかえり獅子」の北田吉弘代表（四巴）は「美川の祭りを一層盛り上げ、県内外に響かせたい」と張り切っている。

おかえり祭りは、地元・藤塚神社の春季例大祭で、「天下の奇祭」として知られる。おかえり獅子は二〇〇二年、美川商工会青年部が二十九年ぶりに復活させた獅子舞。ご神体のみこしや十三台の台車、青年団の進軍ラップとともに町を練り、人々の厄を払う。

獅子頭はこれまで、地元の商業組合から借り受けた

10日入魂式 黒漆基調に歯、角など金箔

品を使っていたため、伝統工芸の美川仏壇を手掛ける北島仏壇店（同市美川新町）と、加賀獅子の知田工房（同市八幡町）が、おかえり獅子「オリジナル」の獅子頭を寄付することにした。

白山ろくの桐を素材にした獅子頭は、重さ二十二・三キの大型の黒獅子。黒漆を基調に、口の中は朱漆、目やまゆ、歯、角は金箔が施されている。藤塚神社で十日、入魂式が行われ、初めての舞への準備が整う。知田工房が彫って組み上げ、漆と金箔の塗りは北島仏壇店が行った。「地域の祭りを盛り上げていただきたい。百年は使える品に仕上げました」と北島仏壇店の北島昭浩店主は話している。

（酒井健）